

# 株主のみなさまへ

## 第102期 報告書

平成22年1月1日 ▶ 平成22年12月31日



## 第102期の 報告書をお届けするに あたり、一言ご挨拶 申し上げます。

代表取締役社長 市川 秀夫

当期の国内経済は、年前半においては、中国を中心とする海外経済の改善を背景に、輸出や生産の緩やかな増加など持ち直しの動きがみられました。年後半においては、急激な円高を背景に輸出が緩やかに減少するなど、足踏み状態にありましたが、企業収益の改善、設備投資や雇用情勢等に持ち直しの動きがみられました。また、欧州を中心とした海外経済の減速懸念、為替、株式市場の急激な変動など、景気を下押しする不安材料も生じました。

このような状況の中で、当社グループは連結中期経営計画「プロジェクト・パッション」の完遂に向け、基盤事業の収益力強化、コスト削減策の実施等の

事業構造改革と、財務体質の強化を推進しました。その結果、売上高は、需要が堅調に推移したことから増収となり、損益面におきましては、急激な円高と大分コンビナートにおける定期修理の影響はありましたが、販売数量の増加に加え、前期に実施した事業構造改革の効果顕現等により増益となりました。

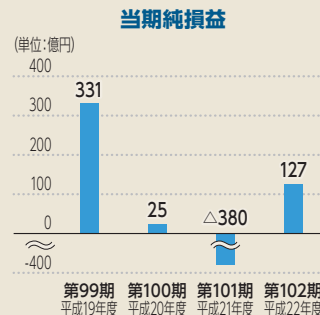
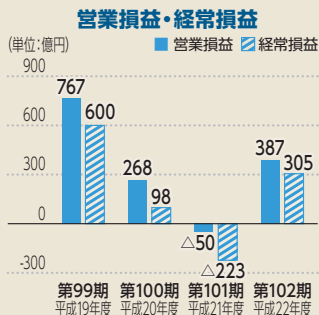
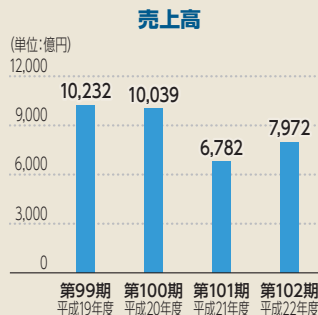
期末配当につきましては、今後の積極的な設備投資を行うため、前期と同額の1株につき3円とさせていただきます。

今年1月より社長に就任いたしておりますが、同時にスタートさせました連結中期経営計画「PEGASUS（ペガサス）」に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、何とぞ格別のご理解をいただき、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

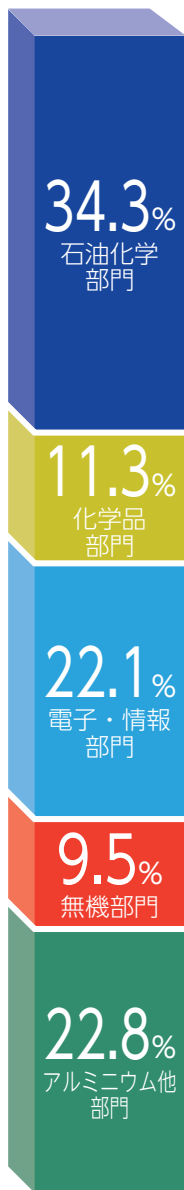
## CONTENTS

株主の皆様へ	1	連結財務諸表	11
事業別の概況	2	会社概要	13
トピックス	3	CSRトピックス	14
トップインタビュー	5	インフォメーション	

## 連結業績 ハイライト

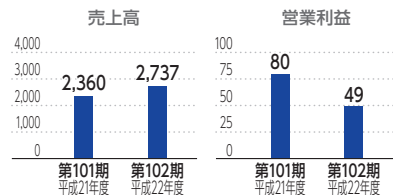


(単位：億円)



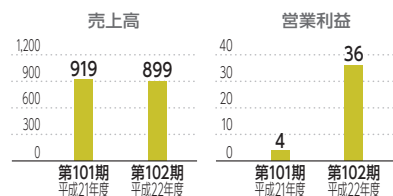
### ● 石油化学部門

オレフィン事業は、エチレン生産設備の定期修理の影響により販売数量が減少しましたが、原料ナフサ価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりました。有機化学品事業は、酢酸エチルは販売数量が減少しましたが、アリルアルコール等の販売価格上昇により前期並みの売上となりました。



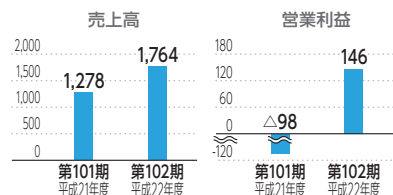
### ● 化学品部門

アンモニア、合成ゴム「ショウブレン®」は、販売数量増加により増収となりました。アクリロニトリルは、販売数量の増加に加え販売価格も上昇し増収となりました。一方、炭酸ガス、ドライアイスは昭和炭酸株式会社等2社の決算期変更による影響が当期はなくなりましたため、総じて減収となりました。



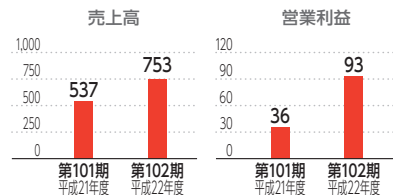
### ● 電子・情報部門

ハードディスク、化合物半導体、半導体向け特殊ガスは、それぞれ販売数量が増加し増収となりました。レアアース磁石合金は販売数量増加と原料価格高騰による販売価格上昇により増収となりました。



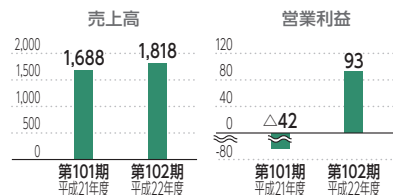
### ● 無機部門

セラミックス事業は、顧客である電子部品・自動車部品業界を中心に販売数量が増加し増収となりました。黒鉛電極事業は、日本、米国ともに販売数量が増加し増収となりました。



### ● アルミニウム他部門

圧延品事業は、コンデンサー用高純度箔の販売数量が増加し増収となりました。押出・機能材事業においては、レーザービームプリンター用アルミニウムシリンダーは販売数量が増加し増収となりましたが、押出品は前年下期に建材向け汎用品から撤退したため、総じて小幅な減収となりました。また、自動車向け熱交換器事業は、欧州は減収となったものの、国内、米国、中国およびタイが増収となり、総じて増収となりました。ショウティック事業は自動車向けに販売数量が増加し増収となりました。アルミニウム缶は、猛暑の影響もあり、販売数量が増加し増収となりました。



2010/7  
石油化学  
部門

### 昭和高分子株式会社 との合併による機能性 高分子事業部の発足

当社は、昭和高分子株式会社の機能性高分子事業の成長・育成を加速し、より一層の相乗効果を実現するため、2010年7月1日付で同社と合併し、機能性高分子事業部を発足させました。

2010/9  
電子・  
情報部門

### ハードディスク生産設備 能力増強決定

当社は、ノートパソコン、サーバー、デジタル家電向け等に需要拡大が見込まれるハードディスクについて、シンガポールをはじめ、各生産拠点において、生産能力を合わせて月産500万枚引き上げることを決定いたしました。これにより当社グループにおける生産能力は、2011年6月末までに月産2,700万枚となります。今後も需要拡大に応じて、引き続き生産能力増強を検討してまいります。



昭和電工HDシンガポール

2010/8  
無機部門

### アルミナ工場 インドネシアに建設決定

当社は、エレクトロニクス製品の部材などに用いられるケミカル用アルミナ事業について、インドネシアのアナム社と共同で、生産能力年間30万トンの新工場を建設することに合意いたしました。新工場は2014年1月より操業を開始する予定です。

2010/9  
電子・  
情報部門

### 青色LED素子 生産能力増強

当社は、液晶テレビのバックライトや一般照明向けに用途が拡大している青色LED素子について、千葉事業所における増強工事を完了させ、生産能力を月産2億個から3億4千万個へ引き上げました。



超高輝度青色LED

2010/10  
アルミニウム  
他部門

### 自動車空調用熱交換器 事業譲渡に基本合意

当社は、日本、米国、欧州、中国およびタイで生産しているアルミニウム製自動車空調用熱交換器事業について、主要ユーザーである株式会社ケーヒンへ事業譲渡することとし、同社と基本合意いたしました。

当社は、今後、高付加価値アルミニウム製品の育成に資源を集中することにより、アルミニウム事業の強化を図ってまいります。

2010

7

8

9

2010/10  
石油化学  
部門

### ディスプレイ向け耐熱・透明フィルム パイロット設備建設を決定

当社は、高い透明性、耐熱性や表面硬度等の特長を有するディスプレイ向け耐熱・透明フィルムのパイロット設備を、大分コンビナート内に建設することを決定し、2011年6月より稼働させる予定です。将来的には、タッチ耐熱・透明フィルムパネルや液晶等のディスプレイ分野に加え、光学フィルム分野への展開を図ってまいります。



耐熱・透明フィルム

2010/12  
化学品  
部門

### 塗料・コーティング、接着剤向け 機能性モノマー事業 拡大強化を決定

当社は、チオール系樹脂硬化促進材料「カレンズMT®PE1」の生産設備を川崎事業所に建設することを決定し、2011年の年央より稼働させる予定です。本製品は、エポキシ樹脂等に添加すると、樹脂の硬化性を格段に向上させ、接着性などの樹脂の性質が改善されることから、建設、船舶等の塗料、コーティング、接着剤向けへの拡大が期待されております。

12

2010/11  
電子・  
情報部門

### エレクトロニクス分野向け 特殊材料ガス製造会社設立

当社は、太陽電池、半導体、液晶パネル等のエレクトロニクス製品の生産工程で用いられる特殊材料ガスについて、エア・ウォーター株式会社と昭和電工エア・ウォーター株式会社を2010年12月に設立し、事業の一部を共同運営することに合意しました。同社はCIGS型太陽電池パネルの成膜に用いられるセレン化水素の生産を、2011年6月より開始する予定です。

11

### 当社のネットワーク

国内と海外に広がるネットワークで  
個性的な製品を安定的かつ  
タイムリーに供給しています

10

国内



海外





## 連結中期経営計画「PEGASUS (ペガサス)」始動 豊かさを持続性が調和する社会の創造に貢献します。

当社グループは、連結中期経営計画「PEGASUS (ペガサス)」を2011年1月から始動させました。新興国の急速な経済成長による市場のグローバル化、地球環境への負荷増大を抑制するための取り組みなどにより、事業環境は大きく変化しています。そのような状況下であっても、国際競争に勝ち抜き「グローバル市場で特徴ある存在感をもつ化学企業」となるためには、当社グループの力を結集して事業基盤のさらなる強化を推進していかなければなりません。

当社グループは、「PEGASUS (ペガサス)」において、個性派化学をさらに進化させ、強力かつ多様な事業群をグローバル展開することにより、各市場におけるリーディングポジションの確立を目指します。

代表取締役社長 **市川 秀夫**

## 「ペガサス」の コンセプトをご説明ください。

今、新興国の急速な経済成長や、地球環境への負荷増大などにより、地球規模で大きな変化が起こっています。この変化を背景として、広くグローバル市場で「電子産業分野における一層の高度化による生活の利便性や快適性の向上」、「健康で安全な社会の実現に向けての地球温暖化対策・環境の保全」、「化石エネルギーへの依存の低下、省エネルギーの推進」など人類共通の諸課題に対応するための新技術の開発と事業化が求められています。そこでペガサスのコンセプトとして、これらの市場ニーズに対応するため「エネルギー・環境」と「情報・電子」の2つの中核事業領域（事業ドメイン）を設定しました。明確な事業ドメインの設定は、昭和電工グループでは初めてです。

当社グループ固有かつ優位性のある技術をベース

に、先進・先端技術領域における部材・素材・ソリューションをお客様に提供し続けることで、豊かさを持続性が調和する社会の創造に貢献していくことができていると思っています。

## 「ペガサス」の 名前に込める思いをお聞かせください。

ペガサスは神話中に出てくる空想上の生き物ですが、ペガサスのもつ2つの翼と4本の足に、2011年から始まった連結中期経営計画の昭和電工グループのあるべき姿を具現化しようと考えました。2つの翼は、ハードディスク(HD)と黒鉛電極。これらは昭和電工グループの主力事業であり、両翼として高い次元への飛翔を図るものです。そして、4本の足は、①安定した基盤事業、②伸びる成長事業、③次代を担う育成事業、④強力な研究開発を表し、体躯を支えるとともに大地を駆けることをイメージしています。

### 2つの事業ドメイン

豊かさと持続性が調和する社会の創造に貢献

進化する個性派化学



### 「PEGASUS(ペガサス)」とは



ハードディスク(HD)



黒鉛電極

安定した  
基盤事業

伸びる  
成長事業

次代を担う  
育成事業

強力な  
研究開発

## 「ペガサス」において目指す 昭和電工のグループ像とは どのようなものでしょうか。

グローバル市場で特徴ある存在感をもつ化学企業を目指します。

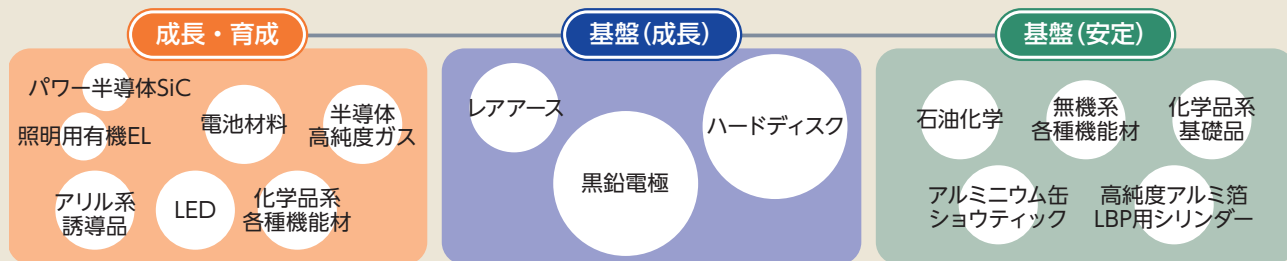
ご承知のとおり、日本社会は少子高齢化が進み将来的にも市場は縮小するのみで、アジア諸国を始めとする拡大する海外市場への進出は必然的なものです。昭和電工グループという一定の事業規模を持った化学素材企業が、ニッチ戦略や隙間ビジネスといった事業だけで生き残っていくのは難しいと思います。主力事業であるHD、黒鉛電極に加え、レアアース磁石合金、コンデンサー用高純度アルミ箔、レーザービームプリンター用アルミニウムシリンダーといった事業においてもさらに海外展開を加速し、世界で戦える事業に拡大していかなければなりません。もちろん、製品の特性ごとに戦略は異なるはずで、例えば半導

体用特殊ガスなら東アジアを、石油化学などはまずは国内をターゲットにそれぞれ事業強化を進めます。

## 「ペガサス」での事業ポートフォリオは どのようになりますか。

ペガサス期間中に目指すべき事業ポートフォリオを「基盤(成長)」、「基盤(安定)」、「成長・育成」の3つに区分し、そこに各事業群を当て込みました。グローバル競争力のある事業に集中して経営資源を配分する成長戦略を遂行します。HD・黒鉛電極・レアアースを「基盤(成長)」事業と位置づけ、グループのキャッシュ・フロー創出の柱とするとともに、積極的な投資も同時に行い、当社グループの成長をけん引します。また「基盤(安定)」事業は、積極的な拡大策は取らないものの、当社グループを下支えします。また、将来の成長事業として「育成」事業の強化を図ります。

### 目指す事業ポートフォリオ





## 次に、個別事業の展開について ご説明ください。

### ▶ ハードディスク事業

ハードディスクドライブの需要は、新興国を中心にノートパソコンの高成長が持続することや、世界的な情報処理量増大によるデータセンター向けの高容量サーバー需要の伸びが予想されることから、今後も年間10%程度の成長が見込まれ、それに応じてHDメディア需要も伸張します。さらなる市場の拡大に対し、当社はシンガポール拠点を中心に生産能力増強と既存設備の能力最大化を同時に推進します。また、HDの高容量化ニーズに対しても、次世代技術への対応を着実に進め、業界のリーディングポジションを確保していきます。



### ▶ 黒鉛電極事業

電炉鋼は、鉄資源リサイクル、低環境負荷の観点から重要度が増しています。当社は、電炉鋼生産で使用される黒鉛電極において特に高付加価値の超大口径電極の世界シェアで40%を持つトップメーカーです。今後、新興国が牽引し世界的な電炉鋼需要の増大が予想されることから、2011年2月に米国拠点における生産能力を増強



することを決定しました。また、生産技術をさらに強化し、品質、コスト両面で世界トップレベルを維持します。

### ▶ 半導体高純度ガス事業

半導体、液晶パネル、LED、太陽電池パネル等のエレクトロニクス産業はアジア諸国を中心に急速に成長・発展しています。特に、同分野向けの半導体高純度ガス事業は、今後も需要増大が見込まれることから、当社はアジアの供給拠点の拡充・強化を積極的に推進し、プレゼンスのさらなる拡大を図ります。2010年11月に発表した、セレン化水素等の太陽電池向け事業への参入など、新製品の早期事業化を進めるとともに、次世代高純度成膜材料ガス等の新製品の開発に積極的に取り組みます。



### ▶ LED事業

高輝度LED市場は、液晶テレビ用バックライトや照明用途を中心に着実に伸張しています。当社は、GaNチップ事業においては生産性向上と効率化を追求し、コスト競争力の強化に努めます。さらに、当社独自技術である「ハイブリッドPPD™」法を生かした大口径GaN系エピタキシャルウエハーの事業化も含めて、当社が強みをもつエピタキシャル技術をコア領域として拡大強化し、事業拡大を目指します。



▶ 基盤(安定)事業

4つの個別事業以外に、ペガサスの4本の足の強化がそれに劣らず重要であることは申しあげるまでもありません。例えば



基盤(安定)事業においても、石油化学、化学品、アルミニウム、セラミックスなどは長年にわたって昭和電工グループの屋台骨を担ってきました。今後も大きな

成長は見込めないかもしれませんが、いわば基礎体力としてしっかりとペガサスを支えてもらわなければならない事業群です。持続的な事業収益向上のため

には、必要な投資もいといたしませんし、ケミカルアルミナ事業のような海外での展開、あるいは国内外との連携などの強化策を講じていきます。



「ペガサス」期間中の研究開発戦略と期待する製品と技術はどのようなものでしょうか。

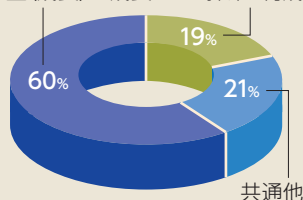
2011年からの5年間に研究開発費として総額1,200億円を投入します。事業の成長・強化に直結する研究開発を長期的に推進し、基盤(成長)事業と成長事業には全体の6割を、探索・育成テーマには2割を配分します。とりわけ次にあげる4テーマについては「事業加速重点テーマ」として研究開発と事業化を加速します。

また、同時に、次の成長の種も探さなければなりません。新たな探索テーマの抽出を急ぎ、研究開発パイプラインの強化を急ぐ必要があります。それを「エネルギー・環境」、「情報・電子」の2つの事業ドメインの視点から3つの技術領域にフォーカスし、取り組んでいきます。

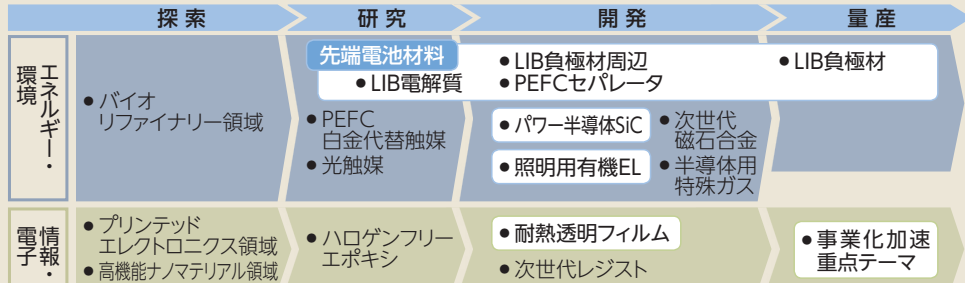
■ 研究開発費

2つの事業ドメインに研究開発費の積極的配分を行います。

基盤(成長)・成長 探索・育成



■ 2015年までの開発パイプライン



PFEC：固体高分子型燃料電池  
LIB：リチウムイオンバッテリー

## 「事業加速重点テーマ」

### ▶ 先端電池材料

すでに事業化している「VGCF®(正負極添加剤)」、「SCMG®(負極材)」、アルミパッケージ材に加えて、リチウムイオンバッテリー用電解質・電解液開発を推進し、2012年までに電気自動車向けの技術を確立、2015年の実装を目指します。

### ▶ パワー半導体SiC

次世代パワー半導体素材としてSiCに対するニーズは高まっています。当社は現在唯一の国産SiCエピウェハーメーカーとして高品質な製品の安定供給体制を早期に確立し、中・高耐圧ニーズに確実に対応します。

### ▶ 耐熱透明フィルム

2011年6月にはパイロット設備を稼働させ、早期の事業化を目指してマーケティングを加速します。まずはタッチパネル用途での採用を目指します。

### ▶ 照明用有機EL

2015年までに寿命4万時間・発光効率80ルーメン/ワットを達成し、照明機器への採用を目指します。

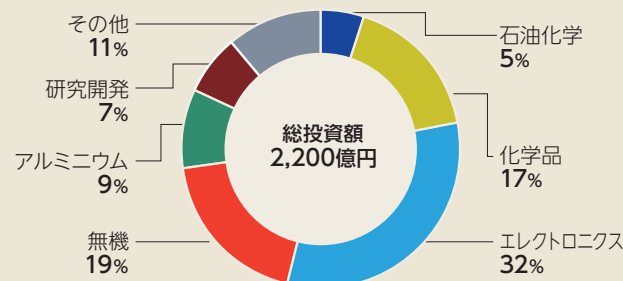
## 最後に計数計画についてご説明ください。

3年後の2013年に、売上高1兆円、営業利益800億円を目指し、当社グループが2007年に達成した史上最高の営業利益767億円を更新する計画です。また、2,200億円の設備投資を実行したうえで、2011年から2013年の3年間でフリー・キャッシュフロー700億円を達成します。

設備投資ですが、2013年までの3年間に総額2,200億円の投資を行います。主力のHD、黒鉛電極に加え、レアアース磁石合金等のエレクトロニクス部門や、アジア拠点の強化を行う半導体高純度ガスなどの化学品部門に全体の約7割を重点的に投資します。

なお、2011年より、従来の「石油化学」、「化学品」、「電子・情報」、「無機」、「アルミニウム他」の5部門から「石油化学」、「化学品」、「エレクトロニクス」、「無機」、「アルミニウム」、「その他」の6部門に変更いたしました。

## ■ 2011～13年の設備投資計画



## ■ 全体計数計画(億円)

### 2013年計数目標 営業利益800億円、FCF400億円

	2011 計画	2012 計画	2013 計画	2015 イメージ
売上高	8,800	9,300	10,000	11,000
営業利益	450	620	800	1,100
営業利益率	5%	7%	8%	10%
FCF	2011～13 累計 700			500
ROA			7%	10%

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当 期 平成22年12月31日現在	前 期 平成21年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>312,181</b>	<b>332,650</b>
現金及び預金	43,627	62,514
受取手形及び売掛金	135,611	147,579
たな卸資産	100,658	92,333
繰延税金資産	3,309	4,631
その他	29,312	26,152
貸倒引当金	△ 336	△ 559
<b>固定資産</b>	<b>612,302</b>	<b>625,653</b>
有形固定資産	499,836	504,273
無形固定資産	12,155	13,554
のれん	2,631	3,832
その他	9,524	9,722
投資その他の資産	100,311	107,826
投資有価証券	58,813	65,084
繰延税金資産	27,462	27,671
その他	14,700	15,984
貸倒引当金	△ 665	△ 914
<b>資産合計</b>	<b>924,484</b>	<b>958,303</b>

(単位：百万円)

科目	当 期 平成22年12月31日現在	前 期 平成21年12月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>328,667</b>	<b>353,958</b>
支払手形及び買掛金	114,234	116,553
借入金・社債・コマーシャルペーパー	142,574	162,463
その他	71,860	74,942
<b>固定負債</b>	<b>310,851</b>	<b>317,624</b>
借入金・社債	208,461	211,448
繰延税金負債	2,974	6,819
再評価に係る繰延税金負債	45,818	45,896
退職給付引当金	26,295	27,088
その他	27,304	26,372
<b>① 負債合計</b>	<b>639,519</b>	<b>671,581</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>239,525</b>	<b>231,925</b>
資本金	140,564	140,564
資本剰余金	62,223	62,225
利益剰余金	36,916	29,311
自己株式	△ 178	△ 174
<b>評価・換算差額等</b>	<b>2,114</b>	<b>12,172</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>43,325</b>	<b>42,625</b>
<b>純資産合計</b>	<b>284,965</b>	<b>286,722</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>924,484</b>	<b>958,303</b>

## POINT

### ① 負債合計

有利子負債は、引き続き削減を進め前期末比229億円減少しました。

### ② 営業損益

ハードディスク、無機、アルミニウム他部門の販売数量増加を主要因として前期比437億円の増益となりました。

### ③ 営業活動によるキャッシュ・フロー

利益の大幅な増加や売上債権の減少等により前期比464億円の収入増となりました。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで	平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで
売上高	797,189	678,204
売上原価	670,260	597,766
売上総利益	126,928	80,438
販売費及び一般管理費	88,206	85,420
2 営業利益又は損失(△)	38,723	△ 4,983
営業外収益	5,324	5,166
営業外費用	13,576	22,508
経常利益又は損失(△)	30,471	△ 22,325
特別利益	4,912	6,637
特別損失	15,608	28,424
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	19,775	△ 44,112
法人税、住民税及び事業税	6,026	3,674
法人税等調整額	△ 1,250	△ 10,664
少数株主利益	2,293	860
当期純利益又は純損失(△)	12,706	△ 37,981
一株当たり当期純利益又は損失(△)	8.49円	△ 29.44円

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで	平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで
3 営業活動による キャッシュ・フロー	66,293	19,846
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 49,074	△ 26,595
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 34,494	28,402
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1,773	△ 95
現金及び現金同等物の 増減額	△ 19,049	21,558
現金及び現金同等物の 期首残高	62,507	40,949
現金及び現金同等物の 期末残高	43,459	62,507

## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成21年12月31日残高	140,564	62,225	29,311	△ 174	231,925	12,172	42,625	286,722
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 4,490		△ 4,490			△ 4,490
当期純利益			12,706		12,706			12,706
自己株式の取得				△ 7	△ 7			△ 7
自己株式の処分		△ 1		4	2			2
その他			△ 612		△ 612			△ 612
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 10,058	700	△ 9,358
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 1	7,605	△ 3	7,600	△ 10,058	700	△ 1,757
平成22年12月31日残高	140,564	62,223	36,916	△ 178	239,525	2,114	43,325	284,965

## 連結決算対象会社

連結子会社数：40社

持分法適用会社数：17社

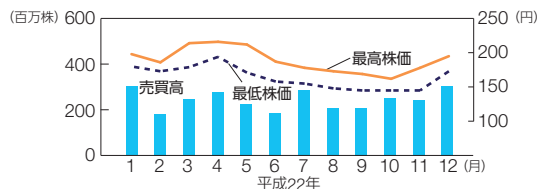
■ **会社概要** (平成22年12月31日現在)

社 名 昭和電工株式会社  
 英 文 社 名 Showa Denko K.K.  
 本 社 〒105-8518 東京都港区芝大門一丁目13番9号  
 電話 (03) 5470-3111 (総務グループ)  
 設 立 昭和14年6月  
 資 本 金 1,405億64百万円  
 従業員数(連結) 11,597名  
 ホームページ <http://www.sdk.co.jp/>

■ **株式の状況** (平成22年12月31日現在)

発行可能株式総数 ..... 3,300,000,000 株  
 発行済株式総数 ..... 1,497,112,926 株  
 株主数 ..... 115,152名

■ **株式データ**



■ **株主メモ**

**事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで  
**定時株主総会** 3月  
**株主確定基準日** (1) 定時株主総会・期末配当 12月31日  
 (2) 中間配当 6月30日  
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

**公告掲載方法** 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。  
 公告掲載URL  
<http://www.sdk.co.jp/>

**単元株式数** 1,000株  
**株主名簿管理人** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL. 0120-288-324

(郵便物送付先)  
 (電話お問い合わせ)

■ **役員** (平成23年3月30日現在)

**取締役・監査役**

代表取締役会長 高橋 恭平  
 代表取締役社長兼社長執行役員 市川 秀夫  
 取締役兼常務執行役員 塚本 建次  
 取締役兼常務執行役員 村田 安通  
 取締役兼執行役員 鯉 沼 晃  
 取締役兼執行役員 酒井 仁和  
 取締役兼執行役員 福田 俊司  
 取締役兼執行役員 岩崎 廣和  
 ※取締役 秋山 智史  
 常勤監査役 伊藤 博  
 常勤監査役 野村 一郎  
 ※監査役 糸田 省吾  
 ※監査役 手塚 裕之  
 ※監査役 小原 之夫

**執行役員**

常務執行役員 宮崎 孝  
 常務執行役員 白石 俊一  
 常務執行役員 坂本 明  
 執行役員 牧 昌和  
 執行役員 水野 義治  
 執行役員 天野 賢  
 執行役員 遠藤 政宏  
 執行役員 Robert C. Whitten  
 執行役員 中條 哲夫  
 執行役員 西村 嘉介  
 執行役員 水谷 温  
 執行役員 武藤 三郎  
 執行役員 石川 二郎  
 執行役員 上 口 啓一  
 執行役員 高崎 完二

(注) ※印の取締役および監査役は、社外役員であります。

■ **株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について**

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社へお願いいたします。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)へ預託されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記のみずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話お問い合わせ先へお願いいたします。

■ **ご案内**

当社は、「単元未満株式の買増制度」を導入しております。  
 1単元(1,000株)に満たない株式をご所有の株主様は、単元未満株式と併せて1単元になる株式を買増請求することができます。  
 お手続などの詳細については、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行)へお問い合わせください。  
 なお、単元未満株式の買増請求につきましても、従来どおりお取扱いたします。



## 社会・ 環境への 取り組み

当社グループは、事業活動を通じてすべてのステークホルダーの皆様へ信頼をいただき、応援していただけること、社員が誇りを持って働ける場を築きあげることがCSRの基本と考えております。当社グループが目指す「豊かさと持続性が調和する社会の創造に貢献する」ことへの取り組みとして、化学・環境教育、地域対話、海外での活動などを通じた社会との関わりについてご紹介いたします。

### 海外での取り組み

米国サウスカロライナ州のShowa Denko Carbonでは、動物愛護協会やボーイスカウト、癌撲滅の募金イベント、障がいのある子供たちに野球をプレーする機会を与えようと設立された「Miracle League of Summerville」などをボランティアが支援しています。



「Miracle League of Summerville」での活動の様子

### 地域おこしに一役

昭和電工HD山形では、東北最大規模のマラソンとして有名な“第9回果樹王国さくらんぼマラソン大会”に特別協賛するとともにボランティアとして参加しました。前日には大会コースの清掃活動を行い、当日には衛生救護班としてランナーに氷水で冷やしたタオルをサービスするなど、地域の行事等に積極的に参加しています。



タオルのサービス

### 夢・化学-21

当社は、2010年8月に開催された「夢・化学-21 夏休み子ども化学実験ショー」に出展いたしました。「石けんからろうそくをつくろう!」をテーマとした実験を行い、参加した子どもたちは、熱心に先生役の当社社員の話を聞き、じっくりと実験に取り組んでいました。



子ども化学実験ショー



清掃活動

## 昭和電工グループ・スローガンとステートメントを制定

昭和電工グループは、お客様、株主様等多くのステークホルダーの皆様に、当社グループの事業活動の方針についてより一層ご理解いただくと

もに、しっかりと「約束」させていただき宣言として、このたび、昭和電工グループ・スローガンおよびステートメントを制定いたしました。



夢や、願いや、思いつきにハッピーエンドを。

想像するだけでは、何もはじまらない。カタチになってこそ、世界は大きく変わる。だから、私たち昭和電工の真ん中には常に、具体化への強い意志があります。それはひとりひとりが、最後までやりきる、ということ。人類が想い描いた夢を、化学のチカラで、ひとつひとつカタチへ。そのために私たちは、新しい発想と深い技術力を持つ個性派企業として、すばやく大胆に行動し、静かな集団から、燃える集団へ変わります。そして、世界中の先進企業たちと、ともに考え、ともに働き、最良のパートナーとなることで、ひとつでも多く、人々の豊かな暮らしへの願いを、具体化していきます。

### ■ グループ・スローガン『具体化。』に込めた思い

地球環境やエネルギー問題の拡大、グローバル化の進展、情報コミュニケーションの発達など社会情勢が大きく変化する中、地球温暖化や化石資源枯渇への対策、情報化を支える製品・技術などに対して高いニーズが存在します。このような地球に暮らす人類の夢や願いを化学の力でかなえていくことが私たち昭和電工グループの使命であると規定し、このことを『具体化。』というシンプルで力強いひとことに込めました。

### ■ 『具体化。』のシンボル「えんぴつ」について

夢や願いを『具体化。』していくことを、「えんぴつ」で描くことで表現しています。さらに「えんぴつ」は思いついた時にすぐに書き出せるというメリットもあり、「スピード感」を持って事業活動を推進していくという意思を示しています。

## WEBサイトのご紹介

当社は、連結中期経営計画「PEGASUS (ペガサス)」のスタートに合わせ、昭和電工グループのWEBサイト(日・英・中国語版)を全面的に改訂いたしました。



コーポレートサイト



IPA(イソプロピルアルコール)等の有害物質を含む「湿し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



VOC(揮発性有機化合物)の発生量の少ない、ベジタブルインクを使用しています。



色覚の個人差を問わず出来るだけ多くの方に見やすいユニバーサルデザインにしています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

▶▶▶ <http://www.sdk.co.jp/>